



ナノ学会会長の川添教授(左)と第7回大会長の丸山教授

ナノ学会

第7回大会を東大で開催

5月9～11日

最先端ナノテク研究が目白押し

ナノ学会(会長:川添良幸・東北大学金属材料研究所教授)は、第七回大会を五月九日(土)～十一日

(月)、東京大学本郷キャンパス(浅野地区)武田先端ビル武田ホールにて開催する(共催:東京大学グローバルCOEプログラム、後援:日本化学会、応用物理学会、電子情報通信学会、日本機械学会ほか)。今回の大会長は、カーボンナノチューブ(CNT)の研究で知られる東京大学大学院工学系研究科の丸山茂

夫教授が務める。

七回目を迎える同大会は、国内最前線のナノテク研究が一堂に会するイベントとして定評がある。第7回が二〇〇三年に神戸にて開催されて以降、年々注目度が高まっており、内容も充実化が図られている。

今回は「イノベーションのためのナノサイエンス— Nano Science for Innovation—」がメインテーマ。CNTなど様々なナノ材料の構造や物性から、応用研究に至るまで、最先端研究が多数発表される。例年通り、口頭発表や若手による発表が充実している点が大

きな特徴だ。プログラムは基調講演や招待講演、口頭発表、ポスターセッションで構成されるが、今回は全体で一七二件もの申し込みがあったという。

基調講演には、CNTの発見者であり、ナノカーボン研究の第一人者としても知られる飯島澄男氏(名城大学)、フラーレン関連物質の有機合成や応用研究で知られる中村栄一氏(東京大学)、クラスター・フラーレン・ナノチューブの合成機構の基礎研究で知られる阿知波洋次氏(首都大学東京)、マイクロチップを用いた化学反応やバイオ診断応用などで知られる北森武彦氏(東京大学)が登場する。

このほか、招待講演や口頭発表では、CNTなどナノカーボン材料の構造や物性、応用を中心に注目している研究が目白押しとなっている。その中から、三十五歳以下の若手研究者を対象にした優秀発表の表彰も行われる。

同学会に関する問い合わせ、申し込みは、事務局(アカデミック・スクエア)内、☎〇七五―四六八―八七七(二)まで。